

令和5年度
教育課程特例校における特別な教育課程
【実施状況報告】

箕面市立第六中学校

1.概要

箕面市では平成27年4月から教育課程特例制度を活用し、箕面市立中学校の全学年において、「英語コミュニケーション科」を設定し、全ての学年で毎日英語に触れる取り組みを行っています。

市内の中学校では、年間140時間（週4時間）の外国語科（英語）に加えて、総合的な学習の時間から年間30時間削減し、「英語コミュニケーション科」の授業時数に充てています。英語コミュニケーション科を週に1時間程度設定することで、毎日英語に触れられる環境作りを行うことができます。特別の教育課程を実施することで、9年間を通して子どもたちが毎日英語に触れられる環境作りを行っています。

2.学校関係者からの意見

英語コミュニケーション科の授業において、

よいと思うこと（生徒の授業に取り組む姿や英語力向上の関する変化があれば）

- ・レギュラーではスピーチやプレゼンをやる時間がないので、英Cでそれを補えるのがいい。レギュラーでは点数が取れない子でも、積極的に楽しめている姿が多く見受けられ、良い雰囲気となっている。ALTが確実に来てくれるので安定して授業が行える。
- ・書くことが難しい生徒でも発表や会話はできる場面がたくさんあるので、その機会を英Cで設けることができる。なので、レギュラーの英語の授業に比べてアウトプットできる時間になる。
- ・指示や説明などほぼ英語で進めているので、英語をたくさん聞くことができる。英Cでスピーチ練習や発表ができるので、レギュラーでも発表に前向きな生徒が増えている。
- ・週に1回の1時間、という限られた時間で、発表できるように指導するため、即興の要素が強い。ペアやグループ内で協力しながら学べるので、子どもたちは良い雰囲気です。

3.今後に向けて

- ・中学校から学ぶ内容が小学校の時と比べて、急激に難しくなるので、英語でコミュニケーションをとることの楽しさや自分の発言した言葉がALTに通じた経験や喜び、体験を今まで以上に増やしていく必要がある。
- ・校外学習など学校以外の場で外国人と話してみるなどの経験、体験をすることで、英語で伝え合うことの楽しさや自信と喜びを実感させていきたい。